

ジャパンプラブ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

3月度理事会報告

少人数でも和やかな、楽しい新年会になりました ジャパンプラブ新年会開催さる

2月7日に行なわれた2月理事会には8名の理事が参加、サンマテオ 榎木マーケット2階に於いて開かれ、下記の点について討議がなされた。今回の理事会は一週間後に控えた新年会の打ち合わせを中心議題に進められました。

議題1. 2015年度新年会について

2015年度新年会を2月15日(日)、午前11時より、会場はサンフランシスコ日本町桑港寺で開催される。

開催の詳細が検討され、各担当者がそれぞれ分担して準備に当たる事を決める。尚、当日は準備の為役員は午前8時迄に桑港寺の会場に集合する。エンターテインメントとして会員に依る個性豊かな“催し”を計画。 *新年会の写真と報告(下記及び2面)をご覧ください*

新年会挨拶 宇田川博文副会長

昨年2014年は、アメリカでは緩やかながらも経済が回復を遂げ、日本でも円安、原油安の効果もあり、明るい将来に向かって変化の兆しが見え始めた一年ではなかったかと思えます。ジャパンプラブも夏には創立20回目の年次総会を開催し、新年会、会活性化のためのアンケート調査、ガレージセール、テスラ工場見学、BBQ大会、税金勉強会、さくら学園との交流会など様々なアクティビティを開催し、会員の皆さんの交流の場を提供いたしました。一方で、クラブ創設以来の主要メンバーで長くクラブの副会長を務められた福光哲史さんを失った年でもありました。

今年2015年が開けますと、世界中の日本人にとって衝撃的な事件が起こりました。イスラム国に拉致された日本人2名が殺害されるという出来事です。遠い中東での出来事ではありますが、様々な人種、様々な宗教的な信条の人々が暮らす私達にとってもまったくのひとごととは言えない事件です。

日本領事館からの情報によりますと、イスラム過激派が身代金目的に日本人の誘拐を全世界で計画している可能性もあるということです。いたずらにイスラム教徒を敵視したり、イスラム教国の人々を危険視することは避けなければなりません、日々の生活のなかで、ご自身の安全

議題2. その他

・海外安全対策連絡協議会(海安協)出席報告

当地日本国総領事館が最近シリアにて起こった邦人2名の拘束、殺害事件に関連してベイエリア在住の企業/団体代表を集め、2月5日午後2時より海外安全対策連絡協議会が開催され、当クラブより大隅事務局長が参加した。

この協議会での主な説明内容は世界各国(51カ国に及ぶ)で発生しているテロに対する注意喚起、誘拐対策などであるが特に学校関係者に対して生徒達の安全性を保つべく Security 対策の強化及び海外渡航先に関する危険度、海外旅行のテロ/誘拐対策で各自の不必要な渡航の粛正を促された。

更に安全であると思える当地に於いてもテロ分子の存在は否定出来ず、何時事件が起きても不思議は無いとの認識を持って取り組んでほしいとの要請があった。

もし不遇にも被害に遭遇した場合にはすかさず日本領事館(Integrated Notify Support in Disaster & Emergency)まで連絡される様依頼された。 大隅敏男(事務局)

次回3月度理事会は3月7日(土)午後1時より予定、場所は日米会内ジャパンプラブ事務所に於いて開催。以上 大隅敏男(事務局)

には今まで以上にご注意頂く必要もあると思えます。

ジャパンプラブとしても、領事館等からの最新の情報を皆さんにご提供して参りますが、クラブ発足の主旨に立ち返って、クラブのメンバーがお互いに助けあって、安全に楽しいカリフォルニアの生活をエンジョイして行ければと思います。

今年は、暖かくなりましたら、Napaへのワインテイastingツアーを開催する計画もあります。是非楽しみにして頂ければと思います。本日は短い時間ではございますが、ジャパンプラブの理事の皆さん、その奥様、有志の皆さんの心のこもった手料理で、楽しい一時をお過ごしください。

(新年会の記事と写真は2面にもあります—写真提供:宇田川博文さん)





この欄は会員の皆様に開放されたスペースです。貴方のこだわり、旅の想いで、専門的知識など皆さんに伝えたい事をスタイルにこだわらずお寄せください。文字数はおよそ1,000字程度とし、毎月の締め切りは15日です。

イスタンブールを訪ねて (3月号に続く) 宇田川博文

年末年始の休暇でイスタンブールを訪ねました。古代ローマ帝国、ビザンチン帝国、そしてオスマン帝国と3つの帝国の首都だった街であり、ヨーロッパとアジアの接点の街。見どころは尽きませんでしたが、特に興味深かったことをご紹介します。

イスタンブールの旧市街、観光の中心であるスルタンアフメット広場を挟んで、西暦550年頃に建てられたアヤソフィアと西暦1616年に建てられたブルーモスクが立っています。1000年以上の時を経て建てられた2つの建築物がデザインの的にも規模的にもほぼ同じだということに驚かされます。西暦550年といえば日本では古墳時代の末期。古代ローマ帝国の技術力と経済力の高さを称賛すると共に、それが衰退した後の長い「暗黒の中世」の間、人類は技術的にも経済的にも大きな進歩を遂げることができなかったことをここに立つと実感できます。中世における人類の進歩のスローダウンには様々な理由があるのでしょうけれど、そしてパリのノートルダム大聖堂が現在の形になったのが1345年、フィレンツェの大聖堂が完成したのは1436年ですから、西欧の発展にはもう少し早く弾みがついたのでしょうか、そのころから5、600年ほど続く人類の進歩の上げ潮の中に生きる私達は、人類文明は常に弛みなく進歩していた訳ではなく、紀元後の2千年間も半分ぐらいは衰退期だったという事実を覚えておくべきでしょう。人類文明が突然にまた衰退期に入らないという保証はないのですから。

イスタンブール旧市街の中心部から2本のトラムを乗り継いで、テオドシウスの城壁に近い辺境のコーラ修道院までビザンチン様式のモザイク画を見に行きました。元々はビザンチン帝国時代のキリスト教の教会でしたが、オスマン帝国時代にはイスラム教のモスクに改修されて漆喰で覆い隠されていた壁画と天井画です。ビザンチン帝国時代末期になると手間とコストのかかるモザイク画よりも簡便な(ただし古代ギリシャ文化の復興を受けてより写実的な)フレスコ画が描かれるようになります。その過渡期の1320年に建てられた修道院ではビザンチン様式の素晴らしいモザイク画とフレスコ画の両方を鑑賞することができます。



イスタンブールの旧市街には大小様々なバザールがありますが、一番有名で大きなグランドバザールは観光客向けで、売られているものは安物のお土産物やブランド品のコピーばかりです。それよりも、地元民も食材の買い出しにやってくるようなスパイスマーケットのほうが訪ねて飽きません。肉屋だの、魚屋だの、パン屋だの、チーズ屋だの、茶屋だの、スパイス屋だのをひやかして歩きました。その中で Sumac というスパイスをはじめて味見してびっくりしました。色も味わいも赤紫蘇のゆかりとそっくりです。漆の仲間の植物の実を粉砕したものだそうです。漆塗りの漆の実もこんな味がするのでしょうか。そう言えばピスタチオも漆の仲間らしいです。Sumacの実とはとどどんな実なのでしょうか。ちなみにトルコ産のピスタチオは世界一美味しいと思います。皮が薄紫色でやや小粒で少し細長いのですが見分けが付きません。アメリカでも日本でも探せばトルコ産のピスタチオは手に入ります。



新年会

宇田川博文副会長の挨拶で始まった今年の新年会は色々な意味で新しい試みの取り入れられた催しとなりました、今迄に比べると少人数の集まりとなりましたがそれだけ会員同志お互いに話す機会も多く、和気あいあいの中で楽しい新年会となりました。

北哲也理事の司会で始まり、「年の初め」の合唱、沖山理事の音頭で乾杯の後食事、内容は、例年の様に美味しい粕汁、サラダ、お餅、いなり寿司、チキンから揚げ、等々。。。デザートは榎木隆子理事のお手製の2種類のお菓子、また黒沢信平理事から贈られた日本酒その名も「くろさわ」はとても美味しいお酒でした、ありがとうございました。

食事後は、今回の新しい試みとして、カラオケ、クイズやゲーム、手品、そしてビンゴなどなどあっとこの3時間あまりでした。尚、清乃元流の日本舞踊は嬉しい飛び入りサプライズでした、大原さん、榎木さん、井上ミエさん、クリスティーさんありがとうございました。粕汁の準備、会場の設営など皆様のお手伝いに感謝します、ご苦労様でした。



写真: ゲームに遊ぶ(左) カラオケで熱唱する 中原さん(上) 黒沢さん(右)

総合司会の北理事(上) 清乃元流の踊りと会場風景(下)